

尾形 由起子

福岡県立大学 看護学部 准教授

## 介護予防における市町村支援モデルの開発

本研究は、市町村保健師が効果的に高齢者の介護予防に対する保健活動が展開できる市町村支援モデルを開発することである。

介護予防事業の活動プロセス全体を4名の保健師のインタビュー実施。【上司と介護予防の視点を検討】【地域のキーパーソンとなる人としっかりと結びつく】【疫学的な手法を用いて校区の健康データを分析し示す】【地域生活情報を把握】【高齢者が集まりやすい会場の確保】【口コミで高齢者を集める】【地域の協働者が負担にならないよう頼む】【現場の動向を把握】【最初に考えていた内容と現実とのズレとのすり合わせ】【健康問題を抱えながらも参加している虚弱高齢者の身体に対し配慮ある関わり】【高齢者同士が顔なじみの関係づくり】11カテゴリー抽出。次いでアクションとして、市町村と地域包括支援センター両方の保健師の介護予防に対する認識を明らかにした。介護予防事業を始めるために、地域住民と共通理解の基盤をつくりに必要な情報収集の方法や協働者との関係づくりが地域(コミュニティ)の介護予防を推進するうえで重要である事が確認できた。